



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 日産車体株式会社

コード番号 7222 U R L <https://www.nissan-shatai.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 富山 隆

問合せ先責任者 (役職名) 法務・広報部部長 (氏名) 齊藤 義雄 T E L 0463-21-8001

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円 290,878	% 15.8	百万円 10,270	% 356.4	百万円 10,996	% 305.8	百万円 5,483	% 217.4
2025年3月期第3四半期	251,121	8.2	2,250	△24.8	2,709	△17.8	1,727	△15.1

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 4,998百万円 (319.9%) 2025年3月期第3四半期 1,190百万円 (△35.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	40.48	—
2025年3月期第3四半期	12.75	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2026年3月期第3四半期	百万円 261,203	百万円 179,799	% 68.8	円 銭 1,327.40
2025年3月期	269,913	176,561	65.4	1,303.49

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 179,799百万円 2025年3月期 176,561百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 6.50	円 銭 —	円 銭 6.50	円 銭 13.00
2026年3月期	—	6.50	—	—	—
2026年3月期(予想)				6.50	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 402,700	% 14.9	百万円 13,500	% 162.2	百万円 14,200	% 142.8	百万円 6,500	% 114.3

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	135,452,804株	2025年3月期	135,452,804株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	106株	2025年3月期	106株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	135,452,698株	2025年3月期 3Q	135,452,744株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料) 2ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	6
(セグメント情報等の注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7
(追加情報) .....	7
3. その他 .....	7
連結製品別売上高 .....	7

[期中レビュー報告書]

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかに景気が回復している一方で、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響等に留意する必要がありました。当社グループを取り巻く環境は、米国を中心とした通商問題による世界経済を通じた間接的な影響等に注視が必要な状況が続いております。

このような環境において、当社が日産自動車株式会社から受注しております自動車の売上台数は、主に前連結会計年度に生産を開始した「新型パトロール」及び「新型アルマーダ」の増加等により、前年同期と比べ5.3%増加の112,956台となりました。売上高は、台数増加の影響等により、15.8%増加の2,908億円となりました。損益面では、営業利益は台数増加の影響に加え、生産効率が向上したこと等により356.4%増加の102億円、経常利益は305.8%増加の109億円となりました。特別損益では、当社湘南工場のサービス部品生産への事業転換に伴い、当社固定資産の減損損失26億円等を特別損失に計上いたしました。その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は217.4%増加の54億円となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

#### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比べ65億円減少の1,676億円となりました。これは主に、預け金の減少143億円、現金及び預金の増加57億円によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ21億円減少の935億円となりました。これは主に、当社湘南工場のサービス部品生産への事業転換に伴う当社固定資産の減損損失26億円等によるものです。

この結果、資産合計は前連結会計年度末と比べ87億円減少の2,612億円となりました。

#### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比べ111億円減少の773億円となりました。これは主に、その他流動負債のうちリース債務の減少85億円によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ8億円減少の40億円となりました。これは主に、その他固定負債のうちリース債務の減少6億円によるものです。

この結果、負債合計は前連結会計年度末と比べ119億円減少の814億円となりました。

#### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ32億円増加の1,797億円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加54億円、剰余金の配当による利益剰余金の減少17億円によるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2025年5月13日公表の業績予想を変更しております。

詳細につきましては、本日2026年2月12日に公表いたしました「2026年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	70,883	76,683
受取手形、売掛金及び契約資産	75,193	76,400
仕掛品	746	590
原材料及び貯蔵品	4,415	4,946
預け金	22,173	7,839
その他	807	1,192
流动資産合計	174,219	167,651
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,922	12,033
機械装置及び運搬具（純額）	18,164	15,788
工具、器具及び備品（純額）	34,972	33,942
土地	14,132	14,132
建設仮勘定	6,595	8,938
有形固定資産合計	86,787	84,835
無形固定資産	2,129	1,688
投資その他の資産		
投資有価証券	324	324
退職給付に係る資産	5,325	5,293
繰延税金資産	851	1,123
その他	274	286
投資その他の資産合計	6,775	7,027
固定資産合計	95,693	93,551
資産合計	269,913	261,203
<b>負債の部</b>		
流动負債		
支払手形及び買掛金	42,834	39,071
未払法人税等	596	2,126
製品保証引当金	157	161
その他	44,885	35,974
流动負債合計	88,474	77,334
固定負債		
製品保証引当金	341	345
退職給付に係る負債	1,311	1,277
その他	3,224	2,445
固定負債合計	4,877	4,069
負債合計	93,351	81,403
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,904	7,904
資本剰余金	8,317	8,317
利益剰余金	153,121	156,844
自己株式	△0	△0
株主資本合計	169,344	173,066
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	7,217	6,732
その他の包括利益累計額合計	7,217	6,732
純資産合計	176,561	179,799
負債純資産合計	269,913	261,203

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	251,121	290,878
売上原価	243,326	275,187
売上総利益	7,794	15,690
販売費及び一般管理費	5,544	5,420
営業利益	2,250	10,270
営業外収益		
受取利息	336	293
固定資産賃貸料	159	255
スクラップ売却益	22	244
その他	49	45
営業外収益合計	567	839
営業外費用		
支払利息	36	34
固定資産賃貸費用	25	22
減価償却費	24	45
その他	21	10
営業外費用合計	108	112
経常利益	2,709	10,996
特別利益		
固定資産売却益	26	0
受取補償金	—	40
特別利益合計	26	41
特別損失		
固定資産除却損	372	493
減損損失	—	2,844
その他	8	0
特別損失合計	380	3,338
税金等調整前四半期純利益	2,355	7,699
法人税等	628	2,216
四半期純利益	1,727	5,483
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,727	5,483

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,727	5,483
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△536	△485
その他の包括利益合計	△536	△485
四半期包括利益	1,190	4,998
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,190	4,998

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

## 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

## (セグメント情報等の注記)

## I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動車関連	設備メンテナンス	情報処理	人材派遣			
売上高							
外部顧客への売上高	245,868	903	2,563	1,785	251,121	—	251,121
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	1,498	762	2,548	4,808	△4,808	—
計	245,868	2,402	3,325	4,333	255,930	△4,808	251,121
セグメント利益	1,756	172	209	118	2,257	△6	2,250

(注) 1. セグメント利益の調整額△6百万円は、セグメント間の内部売上高4,808百万円及び内部営業費用4,802百万円の消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動車関連	設備メンテナンス	情報処理	人材派遣			
売上高							
外部顧客への売上高	286,192	708	2,332	1,645	290,878	—	290,878
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	991	651	2,703	4,346	△4,346	—
計	286,192	1,700	2,983	4,348	295,224	△4,346	290,878
セグメント利益	9,873	26	148	180	10,228	41	10,270

(注) 1. セグメント利益の調整額41百万円は、セグメント間の内部売上高4,346百万円及び内部営業費用4,388百万円の消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

「自動車関連」セグメントにおいて、当社湘南工場のサービス部品生産への事業転換に伴い、当社固定資産の減損損失2,660百万円を計上いたしました。なお、当第3四半期連結累計期間の減損損失の計上額は2,844百万円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	7,267百万円	8,285百万円

(追加情報)

(当社湘南工場のサービス部品生産への事業転換に伴う人事施策費用)

2025年10月、当社湘南工場をサービス部品生産工場として活用していくことを当社取締役会で決議いたしました。これに伴い今後発生が見込まれる人事施策費用は、対象となる人員数及び金額の諸条件等、合理的な見積りが可能となったタイミングで特別損失に計上予定です。

### 3. その他

#### 連結製品別売上高

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)		増減	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額
乗用車	台 56,552	百万円 165,076	台 68,658	百万円 208,645	台 12,106	百万円 43,568
商用車	40,291	51,846	35,283	50,335	△5,008	△1,510
小型バス	10,477	15,700	9,015	15,620	△1,462	△79
部品売上・その他	—	18,497	—	16,276	—	△2,221
合計	107,320	251,121	112,956	290,878	5,636	39,757

## 独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月10日

日産車体株式会社

取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人 東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 中村昌之

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 皆川裕史

#### 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている日産車体株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

#### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠入手したと判断している。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 繼続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。